



和歌山県日高町におけるアメリカウズラシギ *Calidris melanotos* の春季の観察記録

上出貴士

〒649-1213 和歌山県日高郡日高町高家 699-2

アメリカウズラシギ *Calidris melanotos* は、チドリ目 Charadriiformes シギ科 Scolopacidae のオバシギ *Calidris* 属に属するシギ類で（日本鳥学会 2012）、シベリアのヤマル半島から北米大陸のハドソン湾に至る沿岸のツンドラで繁殖し、非繁殖期は主に南米大陸南部へ渡って越冬する（Hayman *et al.* 1986, 花輪ほか 1996, Svensson *et al.* 2009）。また、一部はオーストラリア南東部やニュージーランドにも渡るが、我が国は主要な渡りルートから外れていると考えられている（Hayman *et al.* 1986）。

我が国における本種の記録は、北海道で 1902 年 8 月に標本として採集された記録が最も古い（山階 1931, 黒田 1952）。それ以降、北海道では、1953 年 10 月に鶴川（小林 1959）、1988 年 10 月に利尻島で記録がある（小杉 1991）。一方、本州では、1949 年 9 月に神奈川県辻堂で確認されたのを嚙矢として（黒田 1952）、1953 年 9 月には兵庫県神崎郡豊富村（現姫路市）で 2 例目の報告が成されている（小林 1959）。1989–1996 年には、三重、兵庫、福岡、宮崎、熊本、鹿児島各県から 8～10 月に 9 例の観察報告がある（日本野鳥の会野鳥記録検討会 1994, 1996, 1997）。このように、観察記録に限られていることから、我が国では本種はごく少ない旅鳥とされている。なお、近年では、インターネット上で本種の観察例が散見されるようになり、我が国への飛来数の増加

がうかがわれるものの、学術文献として報告された事例は少ない現状にある。

著者は、2010 年 10 月から、原則として午前 7–8 時に和歌山県日高町の水田域周辺において 1 ヶ月平均 27.1 日の頻度で、鳥類の観察と記録を継続しているが（上出 2013a, 2014a）、その中で 2014 年 4 月にアメリカウズラシギを確認した。和歌山県で春季に本種が確認されたのは初めてのことであり、また本種の渡り生態を理解する上でも貴重な記録と考えられるので、ここに報告する。

調査地は、図 1 に示した和歌山県日高郡日高町の高家地区の清水井橋から西久保橋までのおよそ 850m の西川流域である。西川の両側には、住宅地が点在する水田域が広がっている。本論文では、前述の 2 つの橋と兩岸の堤防の天端で囲まれた範囲を西川流域とした。

調査地を図 1 に示すとおり 7 つに区分し、北から順にアルファベットを付して区域の名称とした。河床の一部が堆積物等によって隆起し草むらが形成されている区域を A, C, F、河床のほぼ全域に水が流れている区域を B, D, G、頭首工や橋などの人工構造物の周辺を E とした。なお、区域 E の河床の過半には砂礫が堆積しており、降雨による増水時以外は露出し、一部には草むらが形成されていた。

アメリカウズラシギの観察と同定については、肉眼と双眼鏡（6–8 倍）を併用して行い、

2014 年 10 月 14 日 受理

キーワード： *Calidris melanotos*, アメリカウズラシギ, 春季, 和歌山県

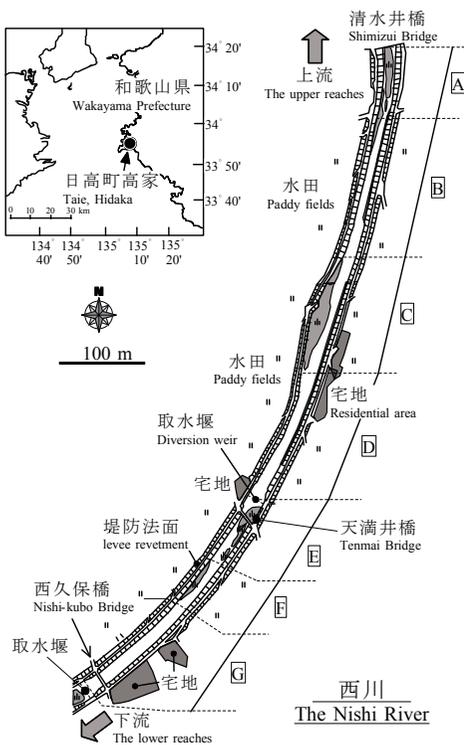


図1 調査地である西川流域の概要。枠囲み内のアルファベットは区分された区域名を示す。

Fig. 1 Map of the observation site. The alphabets in open squares show the area names.

必要に応じて写真を撮影して検討・判定した。

また、本論文における鳥類の和名、学名及び英名については、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会 2012）に従った。

調査地においてアメリカウズラシギは、2014年4月19-21日及び同23日にそれぞれ1羽が確認され、羽色から全て同一個体である可能性が考えられた。確認された個体の側面、背面及び縦斑のある胸部と無斑の腹部の境界の様子を図2に示した。氏原・氏原（2004）、高野（2007）、Svensson *et al.*（2009）、永井・茂田（2014）の情報と比較すると、確認され

た個体は、嘴の先端が黒く、基部が黄色いこと（図2-a）、ウズラシギ *Calidris acuminata* に比べて茶褐色味が弱いこと（図2-b）、喉から胸部にかけて縦斑があり、無斑の腹部との境界が明瞭であること（図2-c）、などからアメリカウズラシギの成鳥と判断された。性別については、Hayman *et al.*（1986）、Chandler（2009）、永井・茂田（2014）によれば、本種の雄成鳥の繁殖羽では、胸部の羽は根元と羽軸が黒みの強い褐色で先端は白い斑を成し胸部全体が斑状に見えるが、本個体の胸部は黒色味が弱く斑は縦斑となっていること、また眉斑がはっきりしないことから雌と判断された。

本個体の初認は2014年4月19日午前7時50分であった。確認場所は、区域Aの清水井橋下の露出した礫底の河床の水際であった。そこでしばらく探餌していたが、調査していた著者を警戒して、区域Cの水深数cm程度の礫底の河床へ移動し、更に区域Dの根固工上へ移動した後、直ぐに下流へ飛び去った。同4月20、23日には区域F、同4月21日には区域Eの露出した礫混じりの泥底の河床の水際で盛んに探餌しており、4月19日に見られたような著者を警戒する様子はほとんど見られなかった。また、23日以外は1羽のコチドリ *Charadrius dubius* と行動を伴にしていた。

環境省のモニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の結果によると、2004-2013年の4月と9月に行われた一斉調査では、のべ525,733羽のシギ・チドリ類が確認されており、アメリカウズラシギは茨城、栃木、埼玉、神奈川、愛知、島根、福岡の各県で8例、合計10羽が確認され、このうち1羽が4月、9羽が9月に確認されている（環境省自然環境局生物多様性センター 2012, 2013, 2014a, 2014b）。特に、4月に実施される春季調査に限ると、のべ373,626羽のうち、アメリカウズラシギは



図2 和歌山県日高町高家で2014年4月に観察されたアメリカウズラシギ *Calidris melanotos*. a) 側面, 2014年4月19日撮影, b) 背面, 2014年4月20日撮影, c) 縦斑のある胸部と無斑の腹部の境界, 2014年4月23日撮影.

Fig. 2 Pectoral Sandpiper *C. melanotos* observed in Taie, Hidaka, Wakayama in April, 2014. a) Lateral view taken on April 19th, 2014, b) Posterior view taken on April 20th, 2014, c) Boundary between streaked breast and white belly taken on April 23rd, 2014.

1羽のみ(愛知県矢作川河口)である(環境省自然環境局生物多様性センター2013, 2014a, 2014b). 一方, 和歌山県では, 1980-2008年の間に本種の記録が8例あり, その全てが9-10月の記録である(和歌山県立日高高校・日本野鳥の会和歌山県支部2009). これらのことから, アメリカウズラシギは春よりも秋に我が国へ多く飛来すると考えられ, 4月に確認された今回の記録は貴重なものであり, 特に和歌山県では春季における初めての記録となった.

確認された時の本種の個体数について, 本論文で引用した文献の記述を見てみると, 30例のうち, 1988年10月の北海道利尻島(小杉1991), 1994年10月の福岡県福岡市(日本野鳥の会野鳥記録検討会1996), 2006年9月の埼玉県越谷市(環境省自然環境局生物多様性センター2012), 2011年9月の福岡県福岡市(環境省自然環境局生物多様性センター2012)の4例で2羽が記録されているが, それら以外では全て単独個体であった. 今回の記録も単独個体であり, 本種は我が国へ単独で飛来することが多いと考えられる. また, 本種は主に我

が国の入り江や水田などの水辺環境に飛来するとされているが(花輪ほか1996, 高野2007, 日本鳥学会2012), 今回観察された環境もまた, 水田域を流れる河川の露出した河床の水際であった.

以上のように, 今回のアメリカウズラシギの観察記録は貴重なものであり, 和歌山県では初めての春季の記録となった. また, 和歌山県でのこれまでの本種の記録8例のうち, 7例が本調査地の位置する日高平野周辺での記録である. こうした記録事例は, その地域における観察者の存否に多分に依存すると考えられるが, そうしたことを考慮しても, 調査地周辺は和歌山県を通過する数少ないアメリカウズラシギの中継地になっていると推察される. 調査地は, 本種の他にも, クロハラアジサシ *Chlidonias hybrida* やセイタカシギ *Himantopus himantopus* など, 県内では稀少とされる鳥類の渡りの中継地になった事例も知られている(上出2013b, 2014b). 一方で, 宅地等へ転用される農耕地の増加や河川改修の推進など人間による環境変化が進行している現

状を考えると、鳥類の生息地及びいくつかの希少な鳥類の渡りの中継地として機能している本調査地を如何に保全していくかが今後の課題であり、そのためには鳥類の生態学的な知見を地道に集積していくことが重要であると考え。

特定非営利活動法人バードリサーチの守屋年史研究員には、アメリカウズラシギの同定について貴重なご教示をいただいた。また、本調査を行うにあたって、上出陽子、麻央、メイには様々な形で協力して頂いた。これらの方々に深甚なる感謝の意を表します。

引用文献

- Chandler, R. 2009. Shorebirds of North America, Europe and Asia. Princeton University Press, New Jersey.
- 花輪伸一・鶴見みや古・竹田伸一・桑原和之・中村登流・石田健・藤巻裕蔵・中村浩志. 1996. シギ類種名表. 日本動物大百科 第3巻 鳥類 I (樋口広芳・森岡弘之・山岸哲編), pp.94-103. 平凡社, 東京.
- Hayman, P., J. Marchant & T. Prater. 1986. Shorebirds. Christopher helm, London.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2012. モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 ShorebirdsDatapackage2012.zip<<http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index.html>>(参照2014年5月5日)
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2013. モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査冬期調査報告 The Report of the Shorebirds Census in Japan (Winter 2012-13). 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田市.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2014a. 平成24年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)シギ・チドリ類調査業務調査データ総括報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田市.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2014b. モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査秋期調査報告 The Report of the Shorebirds Census in Japan (Autumn 2013). 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田市.
- 小林平一. 1959. 比較的稀なシギ類種数に就いて. 鳥15(74): 168-170.
- 小杉和樹. 1991. 利尻島で観察された希少種の記録. 日鳥学誌 40: 36-40.
- 黒田長久. 1952. オジロトウネンとアメリカウズラシギの標本及び考察. 鳥 13(61): 21-24.
- 永井真人・茂田良光(監修). 2014. 比べて識別! 野鳥図鑑670. 文一総合出版, 東京.
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田市.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会. 1994. 野鳥情報・観察記録1993.7-1994.7. Strix 13: 265-274.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会. 1996. 野鳥情報・観察記録1994.8-1995.7. Strix 14: 205-211.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会. 1997. 野鳥情報・観察記録1995.8-1996.7. Strix 15: 149-160.
- Svensson, L., K. Mullarney & D. Zetterström. 2009. Collins bird guide 2nd edition, HarperCollins Publishers, London.
- 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
- 上出貴士. 2013a. 和歌山県日高郡日高町の非湛水田周辺域における2010~2011年の冬季の鳥類群集. Strix 29: 63-76.
- 上出貴士. 2013b. 和歌山県日高町高家におけるクロハラアジサシ*Chlidonias hybrida* (チドリ目, カモメ科)の飛来記録. 南紀生物 55(1): 83-87.
- 上出貴士. 2014a. 和歌山県日高町の水田域における鳥類の少なかった2011~2012年の非繁殖期の鳥類群集の特徴-3シーズン(2010年10月~2013年4月)の調査結果から. Strix 30: 59-75.
- 上出貴士. 2014b. 和歌山県日高町高家における2013年9月のセイタカシギ*Himantopus himantopus* (チドリ目, セイタカシギ科)の飛来記録. 南紀生物 56(1): 43-47.

- 氏原巨雄・氏原道昭. 2004. シギ・チドリ類ハンドブック. 文一総合出版, 東京.
- 和歌山県立日高高等学校・日本野鳥の会和歌山県支部. 2009. 和歌山県鳥類目録. 和歌山県立日高
- 高等学校・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊市.
- 山階芳麿. 1931. コモンシギとアメリカウズラシギ. 鳥 7(31): 72-73.

**The first spring record of a Pectoral Sandpiper *Calidris melanotos*
in Wakayama Prefecture, western Japan**

Takashi Uede

699-2 Taie, Hidaka, Wakayama, 649-1213, Japan

A Pectoral Sandpiper *Calidris melanotos* was observed in Taie, Hidaka, Wakayama Prefecture, western Japan on the 19th, 20th, 21st and 23rd of April in 2014. This is the first spring record of this species in Wakayama Prefecture. Additionally, few Pectoral Sandpipers have been observed during the spring migration season in Japan.

Key Words : *Calidris melanotos*, *Pectoral Sandpiper*, *Spring*, *Wakayama Prefecture*.